

「生産計画と工程管理」

開催日：令和6年9月9日(月)

申込期限：令和6年8月19日(月)

実施会場：ポリテクセンター延岡

1 | カリキュラム内容

推奨対象者：中堅層

ねらい：多品種少量化や短納期化など、顧客の多様なニーズに適した生産計画の策定を目指して、工程管理に必要な視点、生産計画・統制への柔軟な取り組み方について理解し、自社の納期管理を見直していくためのポイントを習得する。

基本項目	主な内容
1 工程管理の考え方	<p>(1) 【演習】自分たちの仕事の「生産計画と工程管理」 自分達が行っている生産現場の生産計画、工程管理、生産統制がうまくいっているか、うまくいっていない場合の理由は何故かの討議。</p> <p>(2) 生産方式、注文方式の違いによる生産形態 受注生産と見込み生産の違いとは。個別生産、ロット生産、連続生産の違いの説明する。</p> <p>(3) 工程管理とは</p>
2 生産計画の立案と作成手順	<p>(1) 工程管理の目的 生産活動の重要な要素、4Mとは。生産管理の管理目標Q,C,Dとは。</p> <p>(2) 生産統制 生産が計画通り行われているかをチェックし、コントロールする事。なぜ、生産が遅れるのか。設備総合効率とは。 【演習】設備総合効率の計算。</p> <p>(3) 標準作業、標準時間 計画通り生産を行うには、標準となる作業が必要。 標準作業と標準時間を、余裕率を説明する。 【演習】実際の現場の状況を討議し、研修の理解に繋げる。</p> <p>(4) 現状分析とムダの発見、購買管理、発注点管理 "ムダとは何か、3ムとはなにか。ムダを発生させない為には。購買管理、発注点管理、発注点方式の説明。 【演習】研修のまとめを行う。</p>

※受講者の当日のご様子を見て、主な内容を変更・追加する場合がございます。

2 | 講師紹介

今津 博志 / 株式会社日本能率協会コンサルティング

工業用ゴム部品製造会社で37年間勤務後、現場のコンサルタント歴9年。この間、保全、生産技術、現場、TPM推進室長、CSR推進室長などの経験があり、シンガポール、マレーシアでの海外工場勤務も経験している。

カリキュラム作成のポイント・ひとこと

決まり切った形の「生産計画と工程管理」ではなく、これまでの経歴の保全、生産技術、現場、スタッフ、海外工場勤務、コンサルタントの経験を活かしたカリキュラム、資料としました。講義については、受講者同士、受講者と講師との対話を通して、講義内容が理解できる講義を心掛けます。

